

令和5年度決算に係る

定期監査資料

令和6年7月  
教育委員会高等学校課

## 目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等 .....	1頁
	(1) 勧告事項	
	(2) 指摘事項	
	(3) 監査意見	
	(4) 決算審査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況 .....	3
3	職員の定員、現員調べ .....	3
4	役付職員の調べ .....	3
5	主な事業に関する調べ .....	4
6	決算資料 .....	7
7	事業別実施状況調べ .....	9
8	予備費の充用調べ .....	17
9	現金の取扱状況 .....	17
	(1) 現金取扱状況	
	(2) つり銭の状況	
10	財産に関する調べ .....	17
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の保有状況	
	(3) 基金	
	(4) 債権	
11	財産の貸付け及び使用許可調べ .....	18
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品(1品の取得価格が100万円以上のもの及び寄附受納時の評価額が100万円以上のもの)	
12	借受不動産明細調べ .....	18
13	職員駐車場の管理状況調べ.....	18
	(1) 管理状況	
	(2) 減免の考え方	
	(3) 使用料の見直し	
14	寄附物件の受納状況調べ .....	18
15	備品の処分状況調べ.....	18
16	貸付金等状況調べ .....	18
	(1) 総括表	
	(2) 償還状況	
○	意見、要望等.....	18

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 勧告事項

該当なし

(2) 指摘事項

該当なし

(3) 監査意見

指摘事項	措置状況等
<p>新型コロナウイルス感染症への対応は組織によって様々であり、補助金について段階的に制度に改良を加え利用しやすくしていったという所属もあれば、発生した問題や対応した職員の意見を取り入れ業務マニュアルを随時改正していった所属もあった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症は、今年5月に5類感染症に移行し、県の各組織も概ねパンデミック以前の平常時に戻っている状況と思われるが、今後同様の状況が起きた時の参考とするためにも、新型コロナウイルス感染症に対する対応や意見等は、貴重な記録として保存するべきものと考えられる。</p> <p>については、将来、新たな感染症のパンデミックが生じた際の対策検討に活かすため、新型コロナウイルス感染症への対策、直面した課題や対応等について記録し、そこで得られた知見や今後の教訓等を組織的に引き継がれたい。</p> <p>また、パンデミックの状況下で各組織が業務を継続するために行った対応や担当職員の経験、気づき、工夫等を反映した業務マニュアルやデータベース等は保存し、次のパンデミック発生に備えられたい。</p> <p>また、教育委員会事務局では、県立学校の感染防止対策を目的とした各種ガイドライン等を策定し、各学校との調整を経て対応を進めてきたところである。</p> <p>については、個々の学校現場の実情に応じて講じた感染拡大防止対策のマニュアルを継承し机上訓練を行うなどの即応体制が維持されるよう配慮されたい。</p> <p>加えて、オンライン授業や学校行事等の中止・縮小、マスク着用などパンデミックが生徒に与えた学習面や心身面等への影響及び課題等を整理し、今後の感染症対策の基礎的な情報として保存するとともに、季節性インフルエンザをはじめとする感染症への対応について、学校現場の取組状況を適宜把握しながら、感染症対策を充実されたい。</p>	<p>1 原因 将来新たな感染症が発生した際の取組に活かせるよう、新型コロナウイルス感染症に対する県の対応等について整理し、そこで得られた知見や教訓を記録・保存しておく必要がある。</p> <p>2 処理方針(既に措置したものは、講じた措置を具体的に記載) ○新型コロナウイルス感染症への対応については、文部科学省の通知や県の方針等に基づき、以下のとおり適時ガイドライン等の見直しを行ってきたところであり、その見直しの経緯・内容の記録は、紙文書、DB等で保存し、活用できるようにしている。</p> <p>また、新型コロナウイルス以外の感染症にも日々細心の注意を払い、以下のガイドライン等を実地点検や研修等に活用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「鳥取県立学校版感染症予防ガイドライン(新型コロナウイルス感染症)」(23回改訂)</li> <li>・「鳥取県市町村(学校組合)立学校新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」(16回改訂)</li> <li>・「鳥取県文化部活動における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」及び「大会(定期演奏会等の発表会を含む)への参加及び大会実施におけるガイドライン」(16回改訂)</li> <li>・「鳥取県運動部活動における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」及び「大会への参加及び大会実施におけるガイドライン」(16回改訂)</li> <li>・「学校寮における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」(2回改訂)等</li> </ul> <p>・政府から発信される最新情報や県内の感染状況等を踏まえて決定した感染防止対策や教育活動別の制限等について、随時、各県立学校や市町村(学校組合)に文書通知</p> <p>○機能別クラスターチーム(学校対策チーム)における新型コロナウイルス感染症の検査調整や、クラスター発生時には保健所クラスターチームに同行して現地確認をし、原因究明と再発防止について改善指導・助言を行う等して、そのノウハウを蓄積・伝達しながら対処してきたとともに、担当職員の意見を聞き対応の改善を図った。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策の検証作業として、緊急事態宣言、クラスター対策の経緯・取組の概要、変遷、取組詳細、取組成果・実績、課題・問題点・展望等を整理した。(知事部局が集約)</p> <p>○感染拡大防止に係る即応体制の維持については、引き続き上記ガイドラインの内容を踏まえ、学校との連携を密にしながら、適宜、学校の実情に応じた対策を講じるとともに、今後、改訂予定とされている「鳥取県新型インフルエンザ等対策行動計画」に基づき、教育委員会独自の対応マニュアルを作成し、周知を図る。</p> <p>○児童生徒の学習面や心理面への影響について、教職員を対象に研修会を開催し、専門医による「コロナ禍での子どもの心の心の変化」について講義をいただき、その対応方法等についての理解を図った。</p>

○児童生徒の学習面や心理面等への影響及びその対応について、県立学校、小中学校の調査を行い、その結果を保存・共有している。

### 3 再発防止策

今後も国の動向や県の方針を踏まえながら、新型コロナウイルス感染症への対応に係る経験や記録の活用を図っていく。また、子どもたちの抱える健康課題について、現場の実態等を踏まえながら内容を選定し、実施していく。

#### (4) 決算審査意見

該当なし

2前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況

指摘事項	処理状況等
<p>本県の中学校卒業生数の今後さらなる減少が見込まれる中、特に生徒の減少が顕著な中山間地域の高等学校を維持・存続させていくためには、広く県内外から生徒を受け入れることが必要であり、高校魅力化の推進は喫緊の課題となっている。</p> <p>各高等学校において、特性を活かした魅力づくりが推進されていますが、令和5年度県立高校一般入試の志願状況は全日制22校のうち16校の学科やコースで定員割れとなっています。また県外からの県内県立高校への入学状況は令和2年46人、令和3年52人、令和4年54人と横ばいの状態である。</p> <p>各高等学校の特色ある学科や取組等が広く認知され、県内外の生徒に進学先として選択してもらうためには、積極的かつ効果的に魅力を発信していくことが必要であります。そのためには、全国的なニーズを把握し県内外に魅力を発信するためのコーディネーター等を配置するなど、知事部局、地元自治体と連携しながら、一層工夫して取り組むべきである。</p> <p>併せて、県外生徒の受入れには、住環境及び生活支援は必要不可欠な要素であるため、住環境整備に当たっては、様々な方法を検討し、それぞれの地域に合った住環境確保及び生活支援体制の整備を早急に進めていくべきである。</p>	<p>県内外からの幅広い生徒の受入れに向けては各校の更なる魅力発信を進めていくことが重要であると考えており、青谷上寺地遺跡を活用した考古学学習や漁協と連携した海洋資源調査研究など、地域と連携した各校の特色づくりに資する取組の更なる推進や県外生徒の募集に向けた統括コーディネーターの配置・地域みらい留学(都市部の中学生・保護者と地方の高校とのマッチングイベント)への参画校拡充、大型商業施設等において高校生自らが高校の魅力をPRするイベントの開催等を進めるほか、新たに知事部局、教育委員会、民間事業者、若者団体等で構成する「とっとり若者Uターン・定住戦略本部」を立ち上げて、高校の魅力化に向けた施策を検討して参る。</p> <p>また、県外生徒の募集を進めるにあたっては、住環境整備が喫緊の課題だと捉えており、引き続き、地元自治体や地元企業等と連携した寮の整備やコミュニティ・スクール等と連携した運営の横展開を図るとともに、入居者が一定数を満たさない民間寮を対象とした県と地元自治体との連携による運営支援制度を創設した。</p>

3職員の定員、現員調べ

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	6.4.1 現在	5.8.1 現在	6.4.1 現在	5.8.1 現在	6.4.1 現在	5.8.1 現在	6.4.1 現在	5.8.1 現在	
定員	18	18					18	18	
現員	0	0	0	0	0	0	0	0	
過不足(△)	0	0	0	0	0	0	0	0	
臨時的 任用職員	0	0					0	0	
会計年度 任用職員	3	3					3	3	・一般事務(2名) ・ALT支援担当職員(1名)

4役付職員の調べ

(令和6年7月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
		年	月	
参事監兼高等学校課長	井上 祐一郎	1	3	
高校教育企画室長	漆原 祐一		3	
課長補佐	岸田 賢		3	
課長補佐	津村 恵	1	3	2年3ヶ月

5 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
地域に根差した魅力ある学校づくり推進事業	15,252				15,252
将来ビジョン	2 つなげる 力をつなげ、結集して、持続可能で魅力あふれる地域を創る				
令和新時代創生戦略	大項目：人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む 中項目：人財とっとり 小項目：地域を支える人財の育成 SDGsゴール (04 質の高い教育をみんなに)				
政策項目	学力・体力を真に育む学校改革と子どもの未来を拓く特色ある高校づくり				

1 事業の目的、概要

生徒数の減少が進む主に中山間地域の高校において、地域と連携しながら、県内外の中学生が進学する際の選択肢となるような特色ある学校づくりを進める。  
併せて、「令和新時代の本県高等学校教育の在り方について(答申)(令和3年10月)」を受け、基本方針の策定を進める。

2 事業の内容、実施の状況

(1) 県外生徒募集活動

- 「地域みらい留学」への参加  
全国各地の高校魅力化に実績のある鳥根県の財団法人が主催する、県外高校への進学を検討する都市部等の中学生・保護者と県立高校のマッチングイベント(地域みらい留学)に4校(青谷高校、倉吉農業高校、日野高校、智頭農林高校)が参加し、生徒募集活動を行った。  
(※智頭農林高校はR5.6補正予算)

- 県外生徒の受入環境整備事業  
県外生徒を受け入れるために、八頭高校同窓会や岩美高校学校運営協議会が運営する学生寮や、県外生徒を受け入れる下宿先に対して支援を行った。

- 県外生徒受け入れ環境の新規開拓事業  
不動産事業者と連携し、空アパートや旅館、個人宅など、県外生徒の下宿として利用できる施設の調査、開拓を行った。

- SNS等を活用した魅力発信  
県外生徒募集校10校(青谷高校、岩美高校、八頭高校、智頭農林高校、倉吉農業高校、倉吉総合産業高校、鳥取中央育英高校、境高校、境港総合技術高校、日野高校)についてのPR映像を活用したYouTube広告を関東、関西エリアにおいて配信し、各高校の魅力を発信した。

(2) 魅力ある学校づくり推進事業

- 青谷高校において、地域資源の「青谷上寺地遺跡」を活かした学習を行った。遺跡の発掘体験や土器づくり体験、先端の研究者の講演等、考古学という他の高校にはない魅力の打ち出しを行った。
- 岩美高校においては、「製菓」「調理」といった科目を設定し、実習に必要な調理器具等を整備するとともに、県外の専門学校の専門家を講師に招き調理実習を行った。
- 智頭農林高校では、地元智頭町と連携し、生徒が授業で学んだことを学校外でも活かすための活動拠点(BASE Connect)において、魅力化コーディネーターの支援のもと地域住民とふれあうイベントの開催等、高校の魅力化にとどまらず、地域活性化にもつながる取組を行った。
- 倉吉農業高校においては、ドローンや水管理システムなどのICT機器を農業に活用するなど、スマート農業の充実を図った。
- 日野高校では、県外生徒が鳥取県の魅力を知り、さらなる地域の活性化、地域づくりにつなげるためのふるさとキャリア教育を推進した。

(3) 県立高校コミュニティ・スクール運営費

「社会に開かれた教育課程」を実現するため、地域住民や保護者等が委員を務める学校運営協議会を開催し、地域住民等の意見を取り入れた学校運営を行った。

(4) 次期「今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針」策定に係る検討経費

令和6年3月16日に「令和新時代の県立高等学校教育の在り方に関する基本方針(令和8年度～令和17年度)」を策定した。

3 事業成果(改善状況)・課題等

- 県外の中学生や保護者から県立高校への問合せや視察訪問の依頼が学校に数多く寄せられた。また実際に県外からの入学者数が増加傾向にある。

県外からの入学者数 (※全県立高校) (人)

R1	R2	R3	R4	R5	R6
44	46	52	54	58	74

※R6は暫定値

- 県外生徒受入れのためには、学生寮などの住環境が整っていることが必要となるが、現時点で県営の学生寮を有する県立高校は3校しかないため、同窓会等が運営する民間寮や私立高校の学生寮の活用、下宿制度等により住環境整備に努めている。さらなる県外生徒の受入れを進めていくためには、地元自治体と連携しながら、住環境整備等を進めていくことが必要。
- さらに地域と連携した取組を推進し、高校の魅力化だけでなく、魅力と活力のある地域づくりにつなげていく必要がある。
- 「令和新時代の県立高等学校教育の在り方に関する基本方針(令和8年度～令和17年度)」に基づき、関係機関等の意見を聞きながら施策を具体化・明確化し、その実現に努めていく。

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
つながる ひろがる 高校魅力充実事業	3,785	537			3,248
将来ビジョン	2 つなげる 力をつなげ、結集して、持続可能で魅力あふれる地域を創る				
令和新時代創生戦略	大項目：人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む 中項目：人財とっとり 小項目：地域を支える人財の育成 SDGsゴール (04 質の高い教育をみんなに)				
政策項目	学力・体力を真に育む学校改革と子どもの未来を拓く特色ある高校づくり				
<p>1 事業の目的、概要</p> <p>生徒数減少が進む主に中山間地域の高校について、地域と連携しながらそれぞれの魅力・特色の充実、向上を図ることで、県内外からの入学生を増加させ、学校・地域の活性化を図る。 また、専門高校についての魅力を発信し、専門高校への入学者を増加させるとともに、地域産業の担い手を育成する。</p> <p>2 事業の内容、実施の状況</p> <p>(1) 中山間地域の高校の魅力化</p> <p>特に生徒数の減少が進む中山間地域の高校について、魅力化にむけた地域、学校それぞれの役割を再確認し、学校と地域が互いに連携し、魅力と活力のある学校、地域づくりにつなげることを目指し、「中山間地域高校魅力化フォーラム」を開催した。</p> <p>○日時等：令和5年9月3日(日)13:30～15:30(智頭町保健・医療・福祉センター ひだまりホール)</p> <p>○来場者数：102名(一般来場者、関係者・発表者等を含む)</p> <p>○内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基調講演「高校と地域の協働による魅力ある教育・地域・未来づくり」 (講師 岩本 悠氏 (一財)地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事)</li> <li>・県内及び県外高校の取組発表 (岩美高校、智頭農林高校、日野高校における魅力化コーディネーター及び地域との協働による学び等の取組について発表)</li> <li>・高校生、魅力化コーディネーターと講師によるトークセッション</li> </ul> <p>(2) 専門高校の魅力化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生及び保護者等へ専門高校の魅力を発信し、参加各校の学びの特色等について、理解を深めてもらうことなどをねらいとして、「専門高校魅力発信フェア」を開催した。</li> <li>○日時等：令和5年8月19日(土)13:00～16:30(鳥取県立倉吉未来中心)</li> <li>○来場者数：250名(一般来場者、関係者・発表者等を含む)</li> <li>○内容：</li> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門高校等における取組事例の紹介・報告</li> <li>・即興書家TADA氏と専門高校生の対談</li> <li>・ブースでのパネル展示、体験教室、各高校及び連携企業等による実習品・食品等の販売 等)</li> <li>・専門高校の学習内容等魅力を伝える動画を制作し、中学生、保護者等へのPRに活用</li> </ul> </ul> <p>(3) 地域と学校をつなぐ地域住民への支援</p> <p>地域住民の参画により、地域総がかりで地域の特色を活かしながら魅力ある学校づくりを推進した。</p> <p>取組例) 米子東高校・・・地域住民による図書館開放 岩美高校・・・県外生徒の見守り活動支援</p> <p>3 事業成果(改善状況)・課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーラム等の開催をとおして、中山間地域の高校について、特色ある教育活動や地域と連携した取組について広く県民に周知した。</li> <li>・普通科志向が続く中、地域の基幹産業の維持、産業人材確保のため、広く県民に専門高校の教育活動について伝えた。</li> <li>・学校運営協議会の仕組みを用い、さらに地域と連携した取組を推進し、高校の魅力化だけでなく、魅力と活力ある地域づくりにつなげていく必要がある。</li> <li>・中学校卒業生数が減少する中、地域と連携しながらそれぞれの高校の魅力化・特色化を図り、県内外からの入学者を増加させ、学校規模を維持するとともに、多様な価値観に触れる環境を創出し、学校・地域の活性化を図る必要がある。</li> </ul>					

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
国際バカロレア開校事業	33,162				33,162
将来ビジョン	1 ひらく 地域で・県外で・国外で新時代に向かって扉をひらく				
令和新時代創生戦略	大項目：人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む 中項目：人財とっとり 小項目：未来を拓く人づくり SDGsゴール (04 質の高い教育をみんなに)				
政策項目	国際化・AI化に対応した英語・プログラミング教育と大学入試改革				

### 1 事業の目的、概要

令和5年度に一期生が入学し、令和6年度から授業が本格的にスタートする倉吉東高校の国際バカロレア(以下「IB」という。)教育の推進に向けて、令和5年度中に必要な学習環境の整備を行うとともに、引き続きIB教育を指導することができる人材の育成、IB教育の認知度向上及び気運の醸成に向けた広報活動等を行う。

※国際バカロレア(IB)教育…国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラムで、世界に通用する論理的思考力や表現力、コミュニケーション能力などが身に付けられる。

### 2 事業の内容、実施の状況

#### (1) 広報活動

- ・IB地域向け説明会を、令和5年12月9日(土)に倉吉交流プラザで開催  
国際バカロレア機構の黒川氏による講演、学校長・IB生徒・保護者・地域住民によるパネルディスカッション
- ・倉吉東高校IB紹介動画を制作し、YouTubeで公開
- ・デジタルパンフレット作成

#### (2) 教職員スキルアップ

- ・IB資格取得のためのワークショップ参加(11名)
- ・校内ワークショップ開催(コア科目「知の理論(TOK)」50名参加)
- ・協議会・会議への参加(IBコンソーシアム協議会・Asia Pacific Conference)
- ・IB認定校・候補校への教員派遣(高知国際中学校高等学校、東京学芸大付属国際中等教育学校、市立札幌開成中等教育学校・静岡県加藤学園暁秀高等学校、アオバジャパンインターナショナル)

#### (3) 進路指導委託

- ・4, 7, 9月にIBと海外大学の関係性などについての講演会
- ・説明会、生徒保護者面接等の実施

#### (4) 物品等購入

- ・IB教室用机・いす、IB各科目用の教材等

### 3 事業成果(改善状況)・課題等

- ・倉吉東高校IBコース第一期生が決定し、令和6年度4月からの授業開始に向けて準備を行った。
- ・地域向けのIB説明会を開催等の広報活動を行い、国際バカロレア教育周知を行った。
- ・教員の研修、カリキュラムの検討等も効率的に行なっている。
- ・教育環境課(施設担当)と教育人材開発課(人事担当)と連携しながら、令和6年度授業開始にむけた準備を継続的に行っている。



## 6 決算資料

一般会計(歳入)

(単位:円)

区分	科目	予 算 現 額				調 定 額 A	収入済額 B	不納 欠損額 C	収入 未済額 A-B-C	備 考
		当初予算額	補正予算額	継続費及び繰越事業費 繰越財源充当額	計					
歳 入	教育使用料	1,186,651,000	0	0	1,186,651,000	1,157,139,720	1,157,139,720	0	0	
	総務手数料	0	0	0	0	3,250	3,250	0	0	
	教育手数料	29,422,000	0	0	29,422,000	27,202,330	27,202,330	0	0	
	教育費国庫 負担金	1,005,945,000	△ 50,118,000	0	955,827,000	954,999,848	954,999,848	0	0	
	教育費国庫 補助金	24,923,000	△ 9,355,000	0	15,568,000	5,184,025	5,184,025	0	0	
	雑入	1,458,000	△ 1,060,000	0	398,000	283,202	283,202	0	0	
	合 計	2,248,399,000	△ 60,533,000	0	2,187,866,000	2,144,812,375	2,144,812,375	0	0	

一般会計(歳出)

(単位:円)

区分	科目	算 現 額				支出済額 (決算額) B	支出済額の内訳		翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	備考
		当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減		計 A	本庁			
歳 出	教育連絡調整費	1,136,175,000	△ 46,544,000	0	5,530,000	1,095,161,000	1,077,677,034	36,054,963	1,041,622,071	0	17,483,966
	教育振興費	122,076,000	△ 12,192,000	0	△ 5,530,000	104,354,000	97,580,010	70,655,135	26,924,875	0	6,773,990
	合 計	1,258,251,000	△ 58,736,000	0	0	1,199,515,000	1,175,257,044	106,710,098	1,068,546,946	0	24,257,956

特別会計  
該当なし

7 事業別実施状況調べ

(単位：円)

事業名	予 算 現 額					支出済額 (決算額) B	翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	執行率 B/A	事業計画と実績・ 成果、繰越、 不用額の理由等																																																																			
	当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減	計 A																																																																								
(教育連絡調整費) 教職員派遣 研修費	15,566,000	△ 212,000	0	△ 6,320,640	9,033,360	5,906,563	0	3,126,797	65%	<p>新型コロナウイルス感染症等の影響により、中央研修等の県外での研修はオンラインでの実施となったが、教職員の資質や指導力の向上を図るため、計画的な派遣により研鑽を積んだ。</p> <p>【消費者教育に係る研修】 県弁護士会、県金融広報委員会等と連携した出前事業を実施。</p> <p>【不用額の理由】 新型コロナウイルス感染症等の影響により、中央研修等の県外での研修はオンラインでの実施となった</p>																																																																			
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:25%;">中央研修講座への派遣 各種研修会・講習会への派遣</td> <td colspan="10">新型コロナウイルス感染症等の影響で基本的にオンラインでの実施となったが、指導主事及び現職教員を中央研修講座等に派遣することで、指導力の向上を図るとともに、各地区において中核となる人材の育成を図った。</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">内地留学・新教育大学大学院 等への派遣</td> <td style="text-align:center;">区分</td> <td colspan="4">テーマ及び派遣先</td> <td>人数</td> <td>期間</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;">内地留学</td> <td colspan="4">特別支援教育の充実 鳥取大学地域学部(1人)</td> <td>1人</td> <td>1年</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td style="text-align:center;">新教育大学大学院</td> <td colspan="4">兵庫教育大学大学院(2年目1人、1年目1人) 島根大学大学院(2年目1人)</td> <td>3人</td> <td>2年</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>大学の知と連携した授業改革による 学びの質の向上</td> <td colspan="4">東京大学</td> <td>6人</td> <td>9日間</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>消費者教育推進に係る研修</td> <td colspan="10">成年年齢引き下げに伴い、高校生の消費者被害の防止・救済に係る教育の充実のため、講師を招聘して授業実践の取組を学び、各学校の取組についての意見交換を実施。令和2年度に県立高校の公民科教員2名・家庭科教員2名・県教育委員会事務局とて出前授業のための統一教材を作成し、令和3年度に県消費生活センター・県弁護士会と連携した全県立高校への出前授業を実施。令和4年度以降も県弁護士会、県金融広報委員会等と連携した出前事業を実施。</td> </tr> </table>											中央研修講座への派遣 各種研修会・講習会への派遣	新型コロナウイルス感染症等の影響で基本的にオンラインでの実施となったが、指導主事及び現職教員を中央研修講座等に派遣することで、指導力の向上を図るとともに、各地区において中核となる人材の育成を図った。										内地留学・新教育大学大学院 等への派遣	区分	テーマ及び派遣先				人数	期間					内地留学	特別支援教育の充実 鳥取大学地域学部(1人)				1人	1年					新教育大学大学院	兵庫教育大学大学院(2年目1人、1年目1人) 島根大学大学院(2年目1人)				3人	2年					大学の知と連携した授業改革による 学びの質の向上	東京大学				6人	9日間					消費者教育推進に係る研修	成年年齢引き下げに伴い、高校生の消費者被害の防止・救済に係る教育の充実のため、講師を招聘して授業実践の取組を学び、各学校の取組についての意見交換を実施。令和2年度に県立高校の公民科教員2名・家庭科教員2名・県教育委員会事務局とて出前授業のための統一教材を作成し、令和3年度に県消費生活センター・県弁護士会と連携した全県立高校への出前授業を実施。令和4年度以降も県弁護士会、県金融広報委員会等と連携した出前事業を実施。									
中央研修講座への派遣 各種研修会・講習会への派遣	新型コロナウイルス感染症等の影響で基本的にオンラインでの実施となったが、指導主事及び現職教員を中央研修講座等に派遣することで、指導力の向上を図るとともに、各地区において中核となる人材の育成を図った。																																																																												
内地留学・新教育大学大学院 等への派遣	区分	テーマ及び派遣先				人数	期間																																																																						
	内地留学	特別支援教育の充実 鳥取大学地域学部(1人)				1人	1年																																																																						
	新教育大学大学院	兵庫教育大学大学院(2年目1人、1年目1人) 島根大学大学院(2年目1人)				3人	2年																																																																						
	大学の知と連携した授業改革による 学びの質の向上	東京大学				6人	9日間																																																																						
消費者教育推進に係る研修	成年年齢引き下げに伴い、高校生の消費者被害の防止・救済に係る教育の充実のため、講師を招聘して授業実践の取組を学び、各学校の取組についての意見交換を実施。令和2年度に県立高校の公民科教員2名・家庭科教員2名・県教育委員会事務局とて出前授業のための統一教材を作成し、令和3年度に県消費生活センター・県弁護士会と連携した全県立高校への出前授業を実施。令和4年度以降も県弁護士会、県金融広報委員会等と連携した出前事業を実施。																																																																												
県立高校裁量 予算学校 独自事業											<p>学校長が独自性を発揮した学校経営ができるよう、学校運営費、教職員旅費、学校独自事業の総額を一括して配分し、学校長裁量による予算執行を行った。 各学校の課題解決のための臨機な対応ができ、実施に当たっての費用対効果の検証、説明責任を果たすなど、学校の自主・自立に繋がっている。</p>																																																																		
予算額及び 決算額は教育 環境課で計上																																																																													
公立高等学校 就学支援 事業	1,013,293,000	△ 53,709,000	0	0	959,584,000	958,386,873	0	1,197,127	99%	<p>保護者等の市町村民税の課税標準額×6%-市町村民税の調整控除額の合算額が304,200円未満の世帯に対し、高等学校等就学支援金及び学び直し支援金の支給等を行った。</p>																																																																			
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="5"></td> <td style="text-align:center;">支給総額</td> <td colspan="5">年度内受給者数(実人数)</td> </tr> <tr> <td colspan="5"></td> <td style="text-align:center;">高等学校等就学支援金</td> <td colspan="5" style="text-align:center;">954,999,848円</td> <td style="text-align:center;">8,713人</td> </tr> <tr> <td colspan="5"></td> <td style="text-align:center;">学び直し支援金</td> <td colspan="5" style="text-align:center;">378,372円</td> <td style="text-align:center;">14人</td> </tr> </table>																支給総額	年度内受給者数(実人数)										高等学校等就学支援金	954,999,848円					8,713人						学び直し支援金	378,372円					14人																																
					支給総額	年度内受給者数(実人数)																																																																							
					高等学校等就学支援金	954,999,848円					8,713人																																																																		
					学び直し支援金	378,372円					14人																																																																		

事業名	予 算 現 額					支出済額 (決算額) B	翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	執行率 B/A	事業計画と実績・ 成果、繰越、 不用額の理由等
	当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰 越 額	予 備 費 支出及び 流用増減	計 A					
地域と取り組む高校生寮等整備事業	0	7,080,000	0	0	7,080,000	2,612,400	0	4,467,600	37%	地元自治体等、地域と協働して県外生徒等を受け入れるための住環境を整備することで、県立高校への入学者を増加させ学校規模を維持するとともに、学校、地域の魅力化、活性化を図った。  【不用額の理由】 ・地元自治体の中から想定以上の予算上の支援を得られたため。 ・経費負担を伴う寮運営に至らなかったため。
(主) 地域に根差した魅力ある学校づくり推進事業	23,676,000	△ 5,448,000	0	△ 596,000	17,632,000	15,252,942	0	2,379,058	87%	主な事業に関する調べのとおり
(主) つながるひろがる高校魅力充実事業	0	5,745,000	0	0	5,745,000	3,785,970	0	1,959,030	66%	主な事業に関する調べのとおり  【不用額の理由】 各学校における地域学校協働活動推進員確保の調整ができなかったため。
(主) 国際バカロレア開校事業	35,174,000	0	0	△ 1,000	35,173,000	33,162,074	0	2,010,926	94%	主な事業に関する調べのとおり
高等学校教育企画費	41,888,000	0	0	11,434,640	53,322,640	51,300,525	0	2,022,115	96%	県立高等学校に対して指導・助言を行うとともに、関係団体への助成等を行った。  (ふるさとキャリア教育充実事業、特別支援教育充実事業、専門高校充実支援事業、未来につなぐ高校生活支援事業、外国語指導助手等充実事業、世界に羽ばたく人材育成事業、文化芸術活動支援事業から流用)

事業名	予 算 現 額					支出済額 (決算額) B	翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	執行率 B/A	事業計画と実績・ 成果、繰越、 不用額の理由等
	当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減	計 A					
入学選抜諸費	6,578,000	0	0	1,013,000	7,591,000	7,269,687	0	321,313	96%	令和6年度県立高等学校入学者等の選抜を実施した。  願書受付 (一般) R6. 2. 15~2. 19 入学者選抜検査 (一般) R6. 3. 5~3. 6 合格発表 R6. 3. 14
	(単位:人)									
目 計	1,136,175,000	△ 46,544,000	0	5,530,000	1,095,161,000	1,077,677,034	0	17,483,966	98%	
(教育振興費) 探究的な学 び推進事業	2,760,000	△ 1,340,000	0	0	1,420,000	1,249,560	0	170,440	88%	学校の枠を超えた連携を深め、教員同士が協働して教科指導力を向上させ授業改善を図るための取組や、切磋琢磨しながら進路実現に向けて果敢にチャレンジする生徒を育成するための取組を実施。 ・学校連携チャレンジサポート事業(5校6事業)  高大接続改革が進められる中、高等学校教育において求められている「思考力・判断力・表現力(記述力)」の強化を図るため、各研究、各学問分野等における著名な研究者、実践者等を招いて意見交流を行う等の質の高い探究活動を実施した。

事業名	予 算 現 額					支出済額 (決算額) B	翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	執行率 B/A	事業計画と実績・ 成果、繰越、 不用額の理由等					
	当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減	計 A										
高等教育機 関と連携し た学力向上 事業	2,300,000	△ 321,000	0	0	1,979,000	1,449,999	0	529,001	73%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理数課題研究等発表会 R5参加生徒数19人(R4:17人)</li> <li>・「科学の甲子園」鳥取県大会 R5参加生徒数78人(R4:69人)</li> <li>・県立高校・大学教員交流事業 高等学校の生徒が大学教員の最 先端の講義を受けることにより、 学ぶことへの意欲の高揚を図ると ともに、生徒の思考を深める効果 があった。同時に高校教員が大学 教員の指導方法を知り、授業改革 の契機となっている。</li> </ul>					
											大学			実施校数	延べ教員数
											鳥取大学			8校	24人
											鳥取環境大学			5校	7人
											鳥取看護大学			3校	6人
鳥取短期大学			4校	5人											
ふるさと キャリア教 育充実事業	1,184,000	0	0	△ 127,000	1,057,000	1,056,440	0	560	100%	各取組を進めるなかで、県内就職 生徒の内定率は100%と高水準を維 持し、卒業後1年以内の県内就職者 の離職率は11.6%と例年と同水準 を維持している。  (高等学校教育企画費へ流用)					
											区分		実績		
											キャリア塾		25事業実施		
											キャリア教育推進協力企業		264社		
											鳥取県福祉ヘルプメイト資格認定者		4名		
											介護職員初任者研修認定者		33名		
職業教育技術顕彰		255名の生徒を表彰													
ICT活用 推進事業	18,443,000	△ 786,000	0	0	17,657,000	16,693,794	0	963,206	95%	鳥取県学校教育情報化推進計画に 基づき、令和4年度入学生から BYAD(機種指定・自費購入)によ る1人1台端末の学習環境の整備 を進めている。 生徒の情報活用能力向上につなげ るために、教員の情報活用能力向 上に寄与する支援員派遣や、教員 対象研修を行う有識者の派遣を 行った。					

事業名	予 算 現 額				支出済額 (決算額) B	翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	執行率 B/A	事業計画と実績・ 成果、繰越、 不用額の理由等						
	当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰 越 額	予 備 費 支出及び 流用増減						計 A					
定時制通信 制教育振興 費	709,000	0	0	0	709,000	634,443	0	74,557	89% 高等学校の定時制・通信制課程に 在籍する一定の要件を満たす生徒 に対し、教科書・学習書等の給付 を実施したり、定通関係団体への 助成等を行った。						
			給付人数			給付冊数				給付額					
			定時制			14人				125冊			101,325円		
			通信制			7人				80冊			78,655円		
未来につな ぐ高校生活 支援事業	8,787,000	△ 186,000	0	△ 67,800	8,533,200	7,816,764	0	716,436	92% 高校生等の学校生活を支援するた めの取組を実施した。  (高等学校教育企画費へ流用)						
			区分			実績									
			とっとり夢プロジェクト 事業			創造力とチャレンジ精神をもった高校生の主体的な企画・活動を支援した(5校8企画) ・星取県の高専生が天体観測用分光器『スペクトリメーター』を作ってみた(米子工業高等専門学校) ・米子市内の高校生の協働による米子市中心市街地における活性化のための実証実験(YI(ワイワイ)プロジェクト(米子高校)) ・2025大阪・関西万博出店を目指した地域文化×アート×プログラミングによる作品作り(米子工業高等専門学校) ・第2回星撮県フォトコンスト(米子東高校) ・附属SPデザインプロジェクト～ビザ販売におけるSDGs(鳥取大学附属特別支援学校) ・『抹茶 enjoy ふう』プロジェクト(鳥取大学附属特別支援学校) ・高校ダンス部主催のとっとりダンスバトル! SHOIN DANCE CUP(米子松蔭高校) ・小劇場で地域の活性化を目指す(米子東高校)									
			いじめ問題支援事業			全県立高校で心理検査hyper-QUを実施し、生徒及び生徒の所属する集団の状況を把握して、適切な支援策を講じる資料とした。 県立24校の1年生は各校2回・2年生は各校1回実施(定時制1～3年生は2回) ・教員を対象に、心理検査hyper-QUの結果の分析や活用に関する研修実施。参加人数33人									
		高校生マナーアップ 推進事業			高校生の社会の一員としての自覚を高め、規範意識の向上を図るため、挨拶運動を実施した。										
					区分			実施期間			活動内容				
					第1回			令和5年9月21日 (木)～30日(土)			①JR鳥取駅での活動は9月21日(木) (秋の全国交通安全運動期間) ②各学校における啓発活動 生徒への交通、マナー等に関する注意喚起				

事業名	予 算 現 額					支出済額 (決算額) B	翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	執行率 B/A	事業計画と実績・ 成果、繰越、 不用額の理由等																				
	当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰 越 額	予 備 費 支出及び 流用増減	計 A																									
特別支援教育充実事業	5,412,000	△ 1,865,000	0	△ 774,000	2,773,000	2,078,502	0	694,498	75%	自己理解・他者理解のための実践・研究では、県立高校において、県外講師を県内講師へ変更をする等の対応をして、関係機関等より講師を招いて職員研修、生徒講演会等を実施した。  「高校における通級による指導」の実践・研究では、5校を設置校として指定し、通級指導教室についての教職員研修を行った。 ・特別支援教育コーディネーターや内地留学研修により高い専門性を有した教員を講師として、鳥取県高等学校特別支援教育研修会を実施し、特別支援教育コーディネーターの資質の向上を図った。 (高等学校教育企画費へ流用)																				
文化芸術活動支援事業	31,887,000	△ 141,000	0	△ 200,000	31,546,000	30,841,154	0	704,846	98%	高等学校文化部に対して支援を行うことで、文化部活動を活性化し、文化芸術活動に対する機運を高めるとともに、近畿高等学校総合文化祭の成果を維持・継続すべく、日々の部活動の環境を整えた。 コロナ5類移行により、全国高等学校総合文化祭（鹿児島県）、及び近畿高等学校総合文化祭（三重県）は、それぞれ現地での開催となった。  また、高校生「まんが王国とっとり」応援団の活動成果の維持・発展を目指し、平成27年度の近畿高等学校総合文化祭鳥取大会のまんが部門開催を契機に設置した「まんが専門部」の活動を支援した。  (高等学校教育企画費へ流用)																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化部活動地域専門指導者招へい事業</td> <td>文化部活動において、校外の社会人に指導を受けた。</td> </tr> <tr> <td>校外・合同練習会支援事業</td> <td>全国高等学校総合文化祭等に合同で出場する部門が、一堂に集まってホール練習等をした。</td> </tr> <tr> <td>備品整備事業</td> <td>オーボエ、フレンチホルン、チェロ等、文化部活動に必要な備品を整備した。</td> </tr> <tr> <td>県高等学校文化連盟への助成</td> <td>ア 全国高等学校総合文化祭(鹿児島)派遣費補助 イ 近畿高等学校総合文化祭(三重)派遣費補助 ウ 鳥取県高等学校総合文化祭開催費補助</td> </tr> <tr> <td>文化部パワーアップ事業</td> <td>平成27年度に開催した「近畿高等学校総合文化祭鳥取大会」の成果を維持・継続し、文化部活動のレベルアップを図るため、県高等学校文化連盟に経費を補助した。 ・県外の優秀指導者による生徒への指導や合同練習会 ・全国水準の指導者研修への派遣</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロによるまんが講習会</td> <td>令和5年8月18(金)、9月9日(日)、9月16日(日)漫画作品制作過程を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>高校生まんが展</td> <td>令和5年12月22日(金)～12月25(月)西部にて展示・作品鑑賞会等</td> </tr> <tr> <td>まんが甲子園参加事業 (全国高等学校漫画選手権大会)</td> <td>令和5年8月6(日)～7日(月)開催(高知県)</td> </tr> </tbody> </table>											区分	実績	文化部活動地域専門指導者招へい事業	文化部活動において、校外の社会人に指導を受けた。	校外・合同練習会支援事業	全国高等学校総合文化祭等に合同で出場する部門が、一堂に集まってホール練習等をした。	備品整備事業	オーボエ、フレンチホルン、チェロ等、文化部活動に必要な備品を整備した。	県高等学校文化連盟への助成	ア 全国高等学校総合文化祭(鹿児島)派遣費補助 イ 近畿高等学校総合文化祭(三重)派遣費補助 ウ 鳥取県高等学校総合文化祭開催費補助	文化部パワーアップ事業	平成27年度に開催した「近畿高等学校総合文化祭鳥取大会」の成果を維持・継続し、文化部活動のレベルアップを図るため、県高等学校文化連盟に経費を補助した。 ・県外の優秀指導者による生徒への指導や合同練習会 ・全国水準の指導者研修への派遣	区分	実績	プロによるまんが講習会	令和5年8月18(金)、9月9日(日)、9月16日(日)漫画作品制作過程を学ぶ	高校生まんが展	令和5年12月22日(金)～12月25(月)西部にて展示・作品鑑賞会等	まんが甲子園参加事業 (全国高等学校漫画選手権大会)	令和5年8月6(日)～7日(月)開催(高知県)
区分	実績																													
文化部活動地域専門指導者招へい事業	文化部活動において、校外の社会人に指導を受けた。																													
校外・合同練習会支援事業	全国高等学校総合文化祭等に合同で出場する部門が、一堂に集まってホール練習等をした。																													
備品整備事業	オーボエ、フレンチホルン、チェロ等、文化部活動に必要な備品を整備した。																													
県高等学校文化連盟への助成	ア 全国高等学校総合文化祭(鹿児島)派遣費補助 イ 近畿高等学校総合文化祭(三重)派遣費補助 ウ 鳥取県高等学校総合文化祭開催費補助																													
文化部パワーアップ事業	平成27年度に開催した「近畿高等学校総合文化祭鳥取大会」の成果を維持・継続し、文化部活動のレベルアップを図るため、県高等学校文化連盟に経費を補助した。 ・県外の優秀指導者による生徒への指導や合同練習会 ・全国水準の指導者研修への派遣																													
区分	実績																													
プロによるまんが講習会	令和5年8月18(金)、9月9日(日)、9月16日(日)漫画作品制作過程を学ぶ																													
高校生まんが展	令和5年12月22日(金)～12月25(月)西部にて展示・作品鑑賞会等																													
まんが甲子園参加事業 (全国高等学校漫画選手権大会)	令和5年8月6(日)～7日(月)開催(高知県)																													



事業名	予 算 現 額					支出済額 (決算額) B	翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	執行率 B/A	事業計画と実績・ 成果、繰越、 不用額の理由等
	当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減	計 A					
世界に羽ばたく人材育成事業	20,321,000	△ 4,923,000	0	△ 75,000	15,323,000	14,543,701	0	779,299	95%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界トップクラスの大学である米国スタンフォード大学と連携し、インターネットを活用した県内高校生向けのライブ遠隔講座を提供し、幅広い国際感覚、実践的な英語力、世界を視野に入れて活躍する高い意欲と志を持つ高校生の育成を図った。</li> <li>・海外留学・海外体験説明会を実施し、留学気運の醸成を図った。</li> <li>・海外留学支援事業により、1年程度の長期留学する生徒3名に補助金を支給した。</li> <li>・高等学校等派遣支援事業により、3校21名の生徒に学校独自の海外派遣プログラムの参加のための補助金を支給した。</li> <li>・高校生英語弁論大会優秀者派遣事業として、令和5年度優秀者2名をニュージーランドクライストチャーチに派遣した。</li> <li>・クライストチャーチ架け橋プロジェクトとして、ニュージーランドから4名の生徒を受入れ、学校体験やホームステイを通じ、県内高校生と交流した。</li> <li>・江原道青少年国際フォーラムは、対面での開催が見送られ、派遣を行わなかった。 (高等学校教育企画費、外国語指導助手等充実事業へ流用)</li> </ul>
外国語指導助手等充実事業	24,751,000	△ 2,630,000	0	△ 3,045,000	19,076,000	18,276,536	0	799,464	96%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立高等学校に外国語指導助手を配置し、生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成を図った。</li> <li>・外国語指導助手の指導力向上研修を開催し、外国語指導助手の指導力の育成を図った。</li> <li>・Tottori English Challenge Program を開催し、中・高校生が英語のスピーキング力を高める機会を提供した。</li> <li>(世界に羽ばたく人材育成事業から流用、高等学校教育企画費へ流用)</li> </ul>

事業名	予 算 現 額					支出済額 (決算額) B	翌年度 繰越額 C	差引残額 (不用額) A-B-C	執行率 B/A	事業計画と実績・ 成果、繰越、 不用額の理由等
	当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減	計 A					
専門高校充 実支援事業	5,522,000	0	0	△ 1,241,200	4,280,800	2,939,117	0	1,341,683	69%	<p>・生徒が自分の将来に明確な目標を持ち、社会人・職業人として自立していけるように、社会のニーズ等を踏まえ、生徒一人ひとりの特性に応じたキャリア発達を促し、進路指導の改善や資格取得の促進に取り組んだ。</p> <p>・「ふるさとキャリア教育」の一環として、小中学生が、産業について学ぶこと及び進路選択の際に、自己の興味・関心、適性等にあったキャリア形成と関連付けて考える資料として、専門高校や総合学科の学習内容を紹介するパンフレットを作成・提供した。</p> <p>【不用額の理由】 ・農業先進地研修で北海道での畜産研修を予定していたが、コロナ5類移行後に受け入れ先の鶴居村が業務多忙のため、受け入れができなくなってしまったため。令和6年度に延期（隔年実施）。</p> <p>（高等学校教育企画費へ流用）</p>
目 計	122,076,000	△ 12,192,000	0	△ 5,530,000	104,354,000	97,580,010	0	6,773,990	94%	
合 計	1,258,251,000	△ 58,736,000	0	0	1,199,515,000	1,175,257,044	0	24,257,956	98%	

8 予備費の充用調べ  
該当なし

9 現金の取扱状況  
(1)現金取扱状況  
該当なし

(2)つり銭の状況

(令和6年3月31日現在)

つり銭の有無	無	つり銭の額(円)	0
--------	---	----------	---

10 財産に関する調べ

(1)公有財産

ア 土地  
該当なし

イ 建物  
該当なし

ウ 山林  
該当なし

エ 不動産売却  
該当なし

オ 財産の交換  
該当なし

カ 動産(船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機)  
該当なし

キ 物権  
該当なし

ク 無体財産権(特許権、著作権、商標権、実用新案権等)  
該当なし

ケ 有価証券  
該当なし

コ 出資による権利  
該当なし

(2)金券類の受払状況

ア 金券の受払状況

有  無

イ タクシーチケットの受払状況

(令和6年3月31日現在)

前年度末未使用枚数	本年度中		本年度末未使用枚数
	購入枚数	使用枚数及び金額	
28枚	0枚	0枚 0円	28枚

(3)基金  
該当なし

(4)債権  
該当なし

- 1 1 財産の貸付け及び使用許可調べ
  - (1) 土地及び建物
    - ア 土地  
該当なし
    - イ 建物  
該当なし
  - (2) 物品(1品の取得価格が100万円以上のもの及び寄付受納時の評価額が100万円以上のもの)  
該当なし
  
- 1 2 借受不動産明細調べ  
該当なし
  
- 1 3 職員駐車場の管理状況調べ
  - (1)管理状況  
該当なし
  - (2)減免の考え方  
該当なし
  - (3)使用料の見直し  
該当なし
  
- 1 4 寄附物件の受納状況調べ  
該当なし
  
- 1 5 備品の処分状況調べ  
該当なし
  
- 16 貸付金等状況調べ
  - (1)総括表  
該当なし
  - (2)償還状況  
該当なし
  
- 意見、要望等
  - (1)業務に関する意見・要望等  
該当なし
  - (2)監査委員事務局に対する要望等  
該当なし